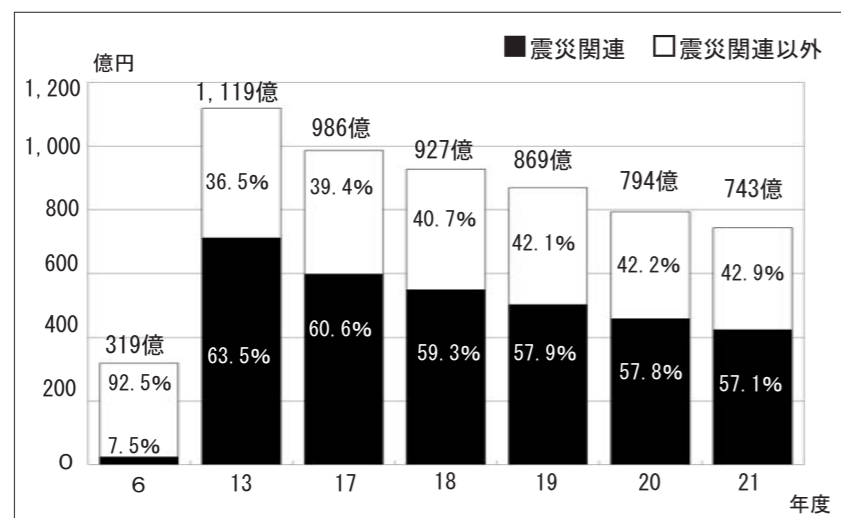


市債残高について

市の借金にあたる一般会計の市債残高については、震災関連事業の実施に伴い急増し、ピーク時の平成13年度末には1,119億円に達しましたが、震災関連事業が一段落したことにより、平成14年度以降減少に転じ、平成21年度末残高は前年度と比較して約51億円減少し、743億円となりました。

なお、743億円のうち震災関連の借入れは424億円(57.1%)となっています。今後とも、新たな市債の発行は必要最小限にとどめる等により、市債残高の一層の縮減を図っていきます。

歳出決算額の推移(グラフの数値は各年度の構成比)



健全化判断比率および資金不足比率を算定

健全化判断比率では基準を超える比率はありませんでしたが、実質公債費比率や将来負担比率については、決して良好とは言える数値ではありません。公債費(借入金の返済)が平成22年度をピークに減少し、それによってこれらの指標も改善される見込みです。

なお、資金不足比率につきましては、資金不足を生じている公営企業会計はありませんでした。

健全化判断比率 (単位: %)

	20年度	21年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	12.20	20.00
連結実質赤字比率	—	—	17.20	40.00
実質公債費比率	19.9	17.9	25.0	35.0
将来負担比率	206.7	190.8	350.0	—

- 【実質赤字比率】一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率
- 【連結実質赤字比率】全会計を対象とした実質赤字(または資金の不足額)の標準財政規模に対する比率
- 【実質公債費比率】一般会計等が負担する元利償還金等の標準財政規模に対する比率
- 【将来負担比率】一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

GATV 広報番組ガイド

9月後半	放送時間(15分)
オープニング	清水公園より 8:30
トピックス	第24回芦屋市民絵画展 12:00
	秋の公民館講座 下山遺跡と芦屋の先住者 16:00
	リレーフォーライフ・芦屋 18:15
特集	10月1日 国勢調査にご協力を 22:45
お知らせ	第22回あしや秋まつり ※DVD VTR 貸出可
エンディング	写真で振り返る「芦屋市制の70年」

アナログ放送は9chで、地上デジタル放送は11chでご覧ください。
番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ 機ケーブルネット神戸芦屋(J:COM)カスタマーズセンター ☎0120-13-8160

平成21年度 一般会計決算概要

芦屋市の財政状況

問い合わせ 財政課 ☎38-2011

平成21年度は、市債残高を減少させることにより将来の負担軽減を目指しながら、「安全」と「環境」、「保健・福祉」および「教育」を重点項目と位置づけ、これまで懸案となっていた公共施設の耐震化や維持補修などの諸課題を解決することで、地域経済の活性化にも配慮して行政運営に取り組みました。

※なお、記事中のグラフ(歳入決算額、歳出決算額、市債残高)には参考として震災前の平成6年度と近年で最大の決算額となりました平成13年度の数値を掲載しています。

歳出

21年度の一般会計歳出決算額は、409億4,264万2千円で、前年度に比べ2億7,501万1千円(0.7%)の増加となりました。

【総務費】市役所全体の事務費や税金の徴収、戸籍および住民票、選挙等に要する経費です。定額給付金支給事業費や文化交流施設整備費の増加等により、25億3,460万3千円(71.0%)増の61億2,667万3千円となりました。

【民生費】福祉等に要する経費です。西田房子福祉基金積立金、私立保育所の建設に対する補助金および障害者自立支援法介護給付費等事業に要する経費の増加等により、6億2,559万4千円(8.1%)増の83億9,268万円となりました。

【衛生費】保健やごみ処理等に要する経費です。1億8,520万1千円(4.8%)減の36億6,475万2千円となりました。

【土木費】道路や都市計画、公営住宅等に要する経費です。南芦屋浜道路整備事業費の増加等により、8億9,916万円(16.2%)増の64億5,075万8千円となりました。

【消防費】消防・救急や災害対策に要する経費です。新消防庁舎整備事業費の減少等により、9億1,424万1千円(43.1%)減の12億6,258万8千円となりました。

【教育費】学校や幼稚園、その他社会教育に要する経費です。市民センター施設整備費や学校耐震整備事業費の増加等により、15億1,531万9千円(38.8%)増の54億2,430万7千円となりました。

【公債費】市債(借入金)の元金や利子の支払いに要する経費です。償還の進捗にともなう残高の減少により、16億7,661万4千円(15.5%)減の91億7,422万8千円となりました。

【その他】前記以外の経費で、議会費や商工費等が含まれます。公共施設用地取得にかかる経費の減少等により、25億2,360万9千円(82.7%)減の5億2,699万6千円となりました。

市民1人あたりに使われるお金は438,588円

総務費	65,373円	消防費	12,922円
民生費	89,904円	教育費	58,107円
衛生費	39,258円	公債費	98,277円
土木費	69,102円	その他	5,645円
合計	438,588円		

歳入

21年度の一般会計歳入決算額は、417億1,788万円で前年度に比べ4億8,270万円(1.2%)の増加となりました。

【市税】歳入全体の約半分(51.6%)を占めます。評価替により固定資産税が8,151万8千円(1.2%)、都市計画税が2,861万4千円(1.7%)それぞれ増加したものの、個人市民税が4億9,800万1千円(4.0%)減少したため、市税総額では3億8,020万1千円(1.7%)減の215億2,331万円となりました。

【譲与税・交付金】前年度と比べ7,822万7千円(4.8%)減の15億3,673万6千円となりました。

【地方交付税】普通交付税の増加により1億9,364万1千円(9.2%)増の23億903万7千円となりました。

【国県支出金】国や県から交付される補助金や負担金等です。南芦屋浜地区における道路や文化交流施設整備事業のためのまちづくり交付金および定額給付金給付事業費補助金等の増加により、前年度と比べ32億9,276万円(91.6%)増の68億8,683万4千円となりました。

【市債】いわゆる借入金です。市民センター施設整備のための社会教育施設整備事業債や臨時財政対策債の増加により、前年度と比べ10億5,834万9千円(70.6%)増の25億5,653万4千円となりました。

【その他】前記以外の収入で、寄附金や手数料収入等です。寄附金は増加しましたが、基金の取りくずしや土地売却収入等の財産収入が大きく減少したこと等により、前年度と比べ36億362万3千円(34.3%)減の69億542万円となりました。



平成21年度は、本市の財政状況 全体のあらまし

本市の財政状況は、平成21年度の決算結果により、黒字(黒字)となりました。黒字額(黒字)は、前年度に比べて約1億4,000万円(1.2%)の増加となりました。

このように状況の中、平成21年度の黒字額は、前年度に比べて約1億4,000万円(1.2%)の増加となりました。黒字額(黒字)は、前年度に比べて約1億4,000万円(1.2%)の増加となりました。

取りくずししており、実際には財源不足の状況となっております。黒字額については、今後の財政運営に支障が生じないよう使用します。

平成21年度 決算のあらまし

項目	説明	金額(千円)
①歳入総額	1年間の収入の総額	41,717,880
②歳出総額	1年間の支出の総額	40,942,642
③歳入歳出差引(①-②)	収入から支出を引いた額	775,238
④繰越財源	平成22年度継続事業に充てるお金	531,981
⑤実質収支	実質的な黒字額	243,257

平成21年度の主な事業

- 防災行政無線整備事業を実施
- あしや温泉整備事業を実施
- 私立保育所(夢咲保育園・平成22年4月1日開所)の建設に対する補助を実施
- 市民センターの耐震補強・リニューアル工事を実施
- 阪神芦屋駅周辺道路および芦屋公園内トイレのバリアフリー工事を実施
- 緊急雇用創出事業を実施
- 学校園にデジタルテレビを配備
- 学校図書費の増額や学習指導員等の配置による学力向上支援を実施

